

ポルテ金沢防災マニュアル（事務所地区のみなさまへ）

（株）ポルテ金沢

<目次>

はじめに	P1
1. ポルテ金沢の設備	P2
(1) 避難のための施設	P2
(2) 消火設備（消火器、屋内消火栓、排煙設備）	P4
(3) 警報設備	P5
(4) エレベーター	P6
(5) 非常用発電設備	P6
(6) 避難場所	P6
2. 地震が起こったら	P6
3. 火災が発生したら	P6
4. ポルテ金沢の消防組織	P7
5. その他ビルとしての備え	P8

はじめに

ポルテ金沢ビルは、事務所フロアだけではなく、ホテル、アートホール、フィットネスクラブ、飲食店など様々な業態の店舗が入居している大型複合ビルです。特質上、外部からの訪問者の滞在が多いため、災害が起こった場合に”慣れていない場所である“ことに起因してパニックがおこり被害が拡大するという可能性があることは否定できません。減災するためには、「いつもの住人」であります事務所フロアの皆様の自助共助が不可欠であろうと考えます。いざというときに、事務所フロアの皆様が適切に対処し安全に避難できるよう「ポルテ金沢防災マニュアル」をとりまとめました。当ビルの設備、避難経路等の概略を記載しておりますので、防災・減災の一助としていただければ幸いです。

1. ポルテ金沢の設備

(1) 避難のための施設

①非常階段：A 階段と B 階段（図 1：基準階避難経路平面図、図 2：避難経路平面図（1 階）参照）

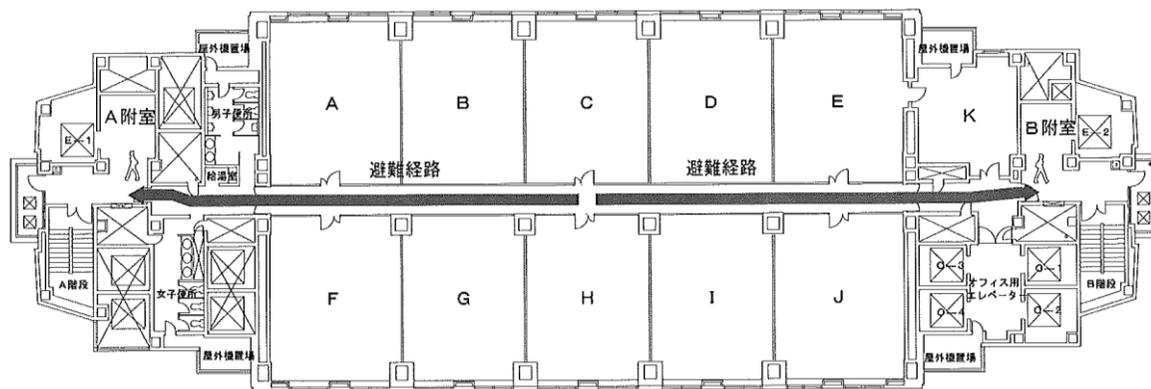


図 1 基準階避難経路平面図（A～Kは区画名）

- ・ B 附室への扉の解放時間は 8 時～19 時ですが、時間外であってもドアノブ下のサムターンキーを開錠することにより、廊下側からはいつでも避難することができます。
- ・ A 附室は通常電気錠が施錠されていますが、避難時は電気錠が解放されます。自分の今いる場所から近い方の階段から避難してください。（附室とは、煙を避難階段まで侵入させないために設けられている避難階段の前室のことで、A 階段に付随する前室を A 附室、B 階段に付随する前室を B 附室と呼んでいます。）
- ・ 階段は、1 階まで下りたら誤って地下まで行ってしまわないように、1 階でいったん附室に出る構造となっています。上の階から下りてきて階段が終わって扉がみえたら 1 階だということになります。避難時非常階段を使う場合、上の階からの避難者もいることを念頭において、階段への扉を開ける際は勢いよく開けないで落ち着いて開けてください。

②防火戸：火災時に延焼を防いだり遅らせたりする為の扉です。エレベーターホール用の防火戸は通常は壁に格納されています。火災時には自動で閉鎖されますが、鍵はかかっていないため通り抜ける事は可能です。

③誘導灯

- (a)非常階段：附室出入口の扉の上部、踊り場上部（人感センサー付き）
- (b)廊下：中廊下中央部、廊下のガラス戸の上部、附室の出入口の扉の上部（A、B）
- (c)附室：非常階段出入口の扉の上部（A、B）

(2) 消火設備 (消火器、屋内消火栓、排煙設備) (図3：事務所基準階消防設備配置図参照)

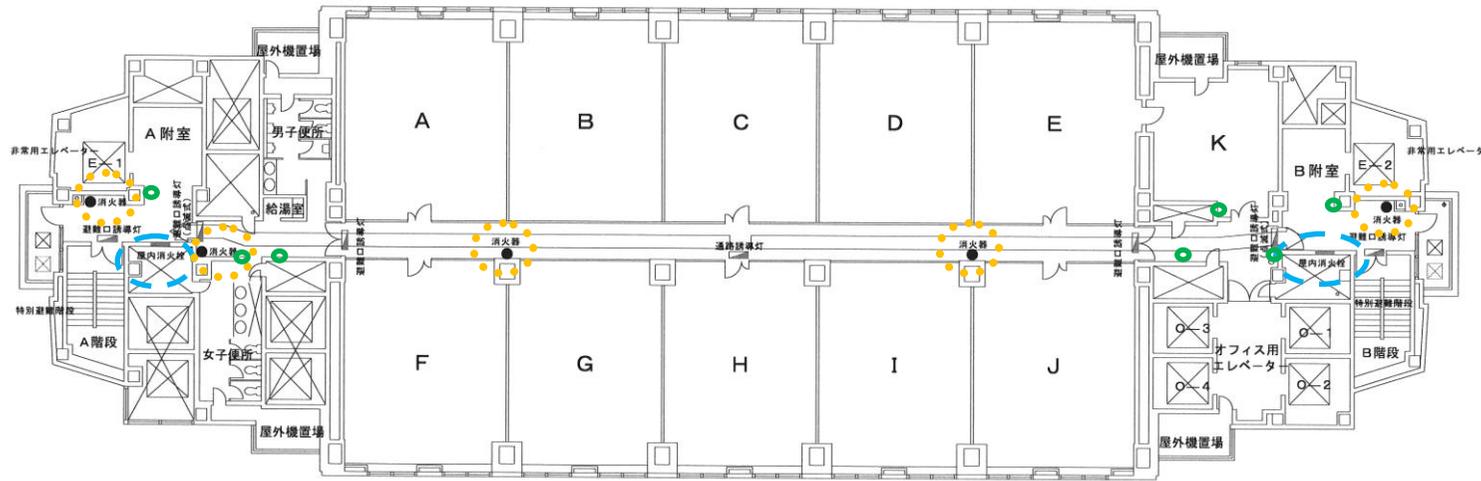
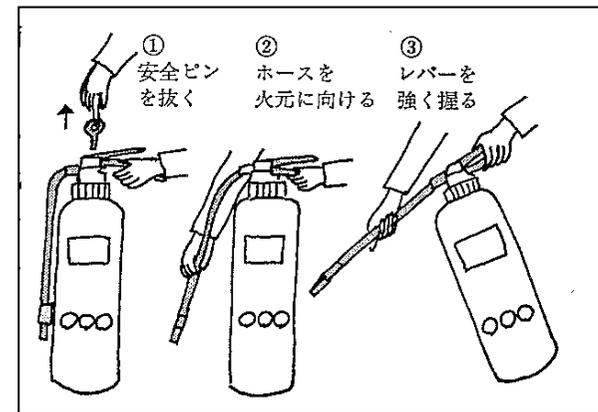


図3 事務所基準階消防設備配置図 (A~Kは区画名)

①消火器 : 廊下に3本、A 附室1本、B 附室1本

消火器使用方法

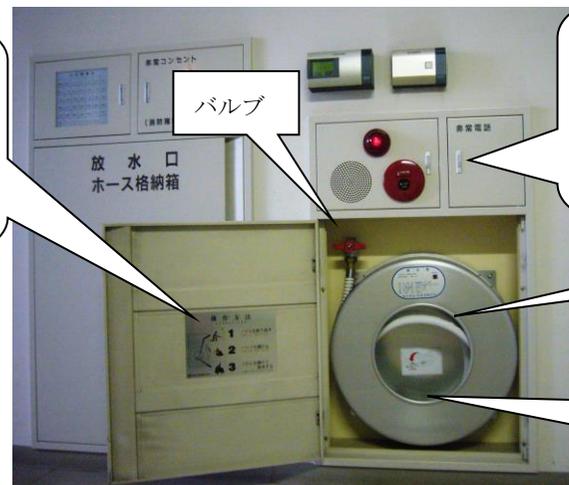


②屋内消火栓：A附室1か所、B附室1か所



※附室内の消火用散水栓（下部）と非常電話・火災報知器（上部）（写真右）
（写真左は消防隊専用放水口ホース格納箱）

消火用散水栓の操作方法
 1. ノズルを取り出す
 2. バルブを開ける
 3. ノズルを開けて放水する



消火用散水栓内部

非常電話の操作方法
 1. ボックスを開ける
 2. 受話器を上げる
 ※防災Cと繋がります

③スプリンクラー：各区画天井に設置

④排煙設備：排煙口作動ボタンの位置

- (a)廊下セキュリティカード操作器の横
（海側・山側各1）
- (b)廊下給湯室前（海側・山側各1）
- (c)K区画前 B附室への扉横
- (d)A附室への扉横
- (e)A・B附室内各1
- (f)K区画内

火災時の煙を外部へ排出するための設備で、自動で作動しないため、手動での操作が必要です。
 （排煙口作動ボタンはプラスチックカバーの上から強く押し込んでください。）
 なお、廊下のガラス戸は、煙の拡散を防ぐ役割があるので固定開放はしないでください。

排煙口作動ボタン



(3) 警報設備（自動火災報知設備、非常警報設備）

室内／廊下：煙感知器 附室：煙感知器、非常用電話（各階附室と防災センターを結ぶ通信回線）、火災報知器

(4) エレベーター

- ・火災時：1階へ移動後休止します。
- ・非常時：エレベーター着床停止後、一旦扉開放後、安全のため扉がしまり籠内照明消灯後休止します。
休止後はエレベーターホールのボタンは反応しませんが、籠内の開ボタンで扉を開けることができます。
地震時のエレベーターの管制体制ですが、地震時管制運転システムが組み込まれており震度により異なります。(下記震度は目安)

①震度2～4：地震発生時は最寄り階に停止し、休止後60秒後に自動リセットし運転を再開します。

②震度4以上：地震発生時は最寄り階に停止し、安全点検後、業者による手動リセット後、運転を再開します。

エレベーターが急行ゾーンを昇降している場合は、階間で一旦停止することがあります。震度が小さい場合、1分後に自動的に低速運転し最寄り階に停止します。

震度がより大きい場合は、一旦停止後、防災センター監視盤と籠内のお客様の手動操作により最寄り階まで低速運転し休止します。

(5) 非常用発電設備

非常系統のみ約2時間送電できる自家発電設備を有しています。(非常灯の点灯、エレベーターの最寄り階への停止など)

停電がおこった場合、防災設備のみ電気供給します。テナント室内蛍光灯、コンセントは停電となります。

(6) 避難場所

駅東広場（もてなしドーム地下広場、場合により1階）に避難することになっています。(金沢市の指定マップでは地区としては此花緑地となっています。)

2. 地震が起こったら

当ビルは耐震構造なので、ビルの躯体にかかわる大きな損傷は生じない設計となっています。むやみに外に出るよりビルの中の方が安全ですので、家具や落下物に注意して自己の保全に努めていただき、防災センターではビルの安全を確認しその旨放送いたしますので待機してください。

3. 火災が発生したら

全館の非常ベルが同時に鳴るのではなく、原則、出火階とその直上階で非常ベルが鳴ります。非常ベルが聞こえたら火災は近いと考えてよいです。その後、防災センターの要員が現場確認の上、非常用放送設備にて火災発生場所、状況を放送することになっていますので、その指示に従って落ち着いて避難してください。

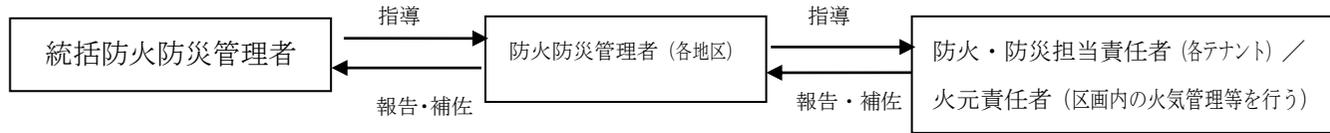
！もし火災現場に遭遇したら（火がみえたら）

- ・大声でみんなに知らせる
- ・防災センターに連絡（内線113）、地区隊長に連絡（内線117）
- ・消火器や消火栓で初期消火
- ・排煙口を作動させる

⇒初期消火失敗した場合（炎が天井に達したら）、逃げる

4. ポルテ金沢の消防組織

法令により、当ビルは大規模な建物に該当するため、統括防火防災管理者を選任し建物全体の防火防災管理を推進することが義務付けられています。



地区：共用／ホテル／アートホール

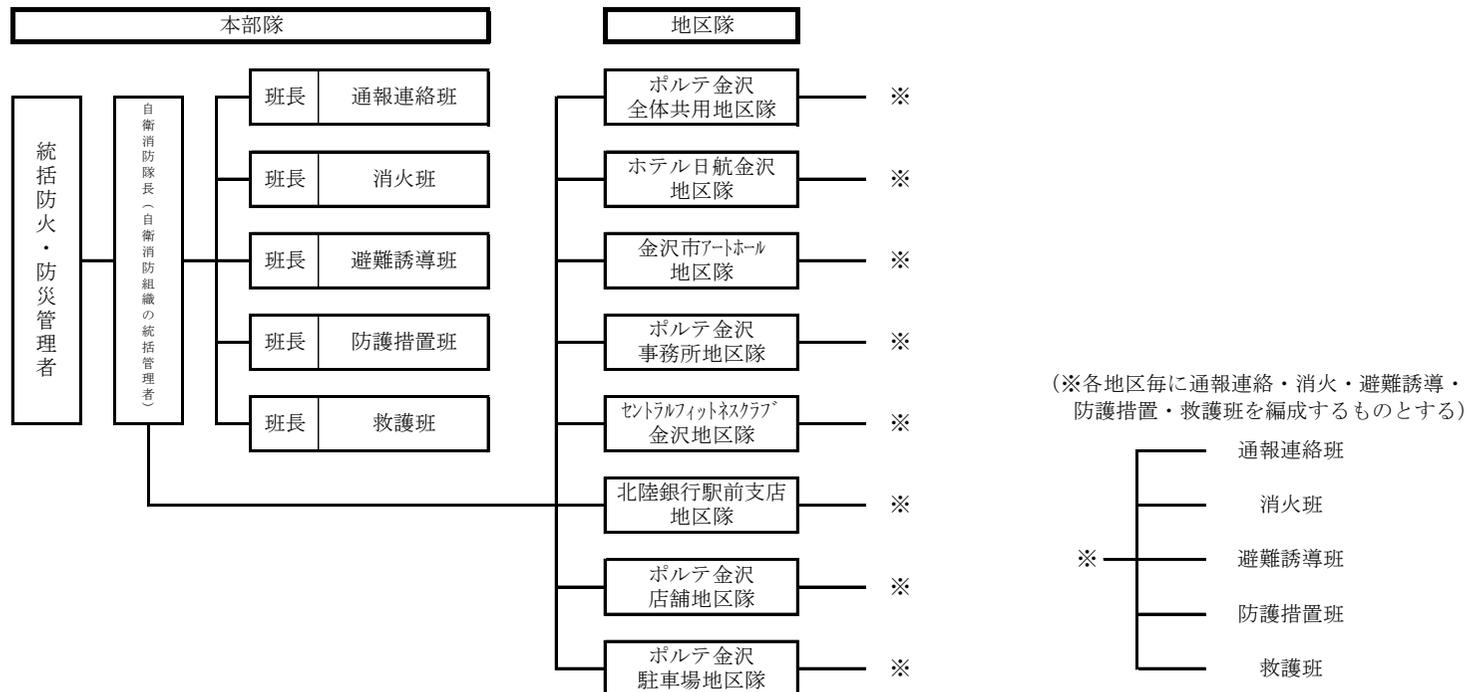
フィットネスクラブ／北陸銀行

店舗／事務所／駐車場

※ご入居の際「防火管理業務及び防災管理業務委託同意書」を提出していただいています。

また、火災・地震・その他の災害等による、人的、又は物的な被害を最小限に止める為、自衛消防組織を図4の通り編成しています。

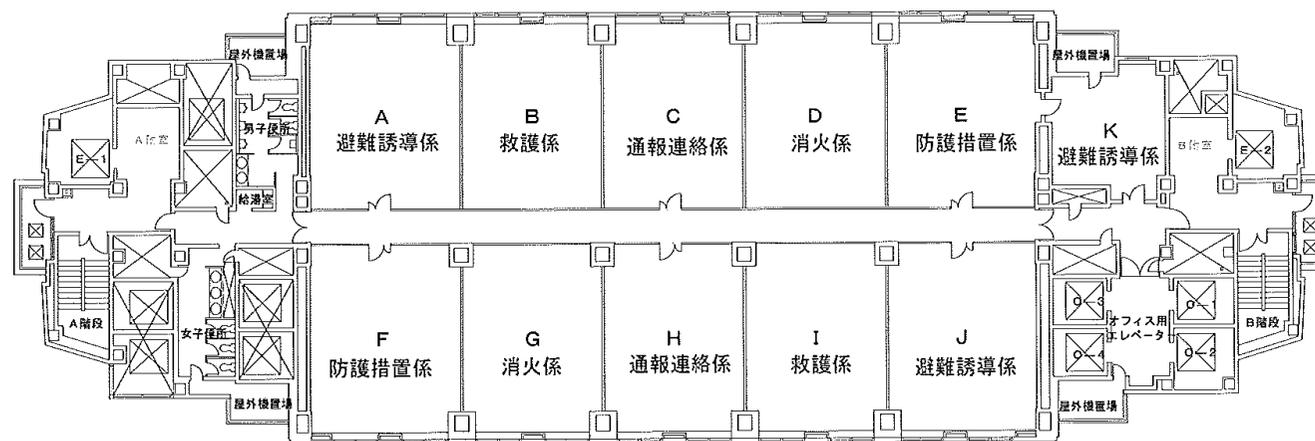
図4 自衛消防隊編成表



事務所テナントの方にはご入居の区画によって、事務所地区の「通報連絡、消火、避難誘導、防護措置、救護」について各々の役割を担っていただきます。

(図5：自衛消防隊事務所地区編成表参照) 当ビルでは年2回の総合防災訓練を行っています。御協力をお願いします。

- ①通報連絡：防災センター(内線 113)、事務所地区隊長 (ポルテ金沢 内線 117) に連絡
- ②消火：初期消火活動を行う
- ③避難誘導：エレベーターの使用を禁止させ、避難階段への誘導
- ④防護措置：地震時の被害確認、火災時の排煙口作動
- ⑤救護：在館者の救護



入居時期等により、役割が異なる場合がございますので、ご了承願います。

図5 自衛消防隊事務所地区編成表

5. その他ビルとしての備え

(1) 備蓄品

- ・オフィスエレベーター内に防災キャビネットを設置しております。

(2) 自販機

- ・共用部分に設置してある自動販売機はすべて転倒防止対策がとられています。
- ・災害対応型自販機を2台設置しております。(2021.7月現在)

(3) AED

- ①地下1階防災センター
- ②1階オフィスエレベーターホール出入口横(公衆電話横) に設置してあります。

以上